

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立篠井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 9人

② 算数 9人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

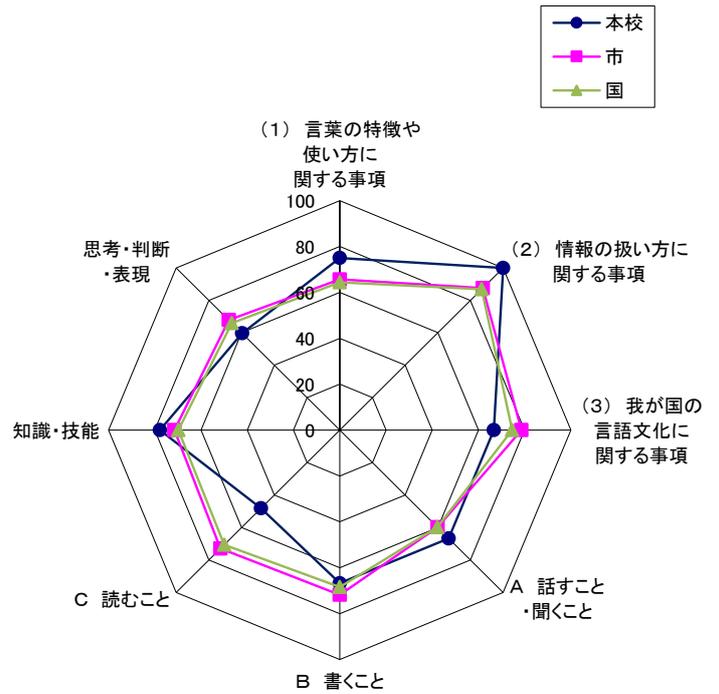
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立篠井小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	75.0	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方に関する事項	100.0	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	66.7	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	66.7	59.9	59.8
	B 書くこと	66.7	71.8	68.4
	C 読むこと	48.1	72.9	70.7
観点	知識・技能	77.8	71.5	69.8
	思考・判断・表現	59.7	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

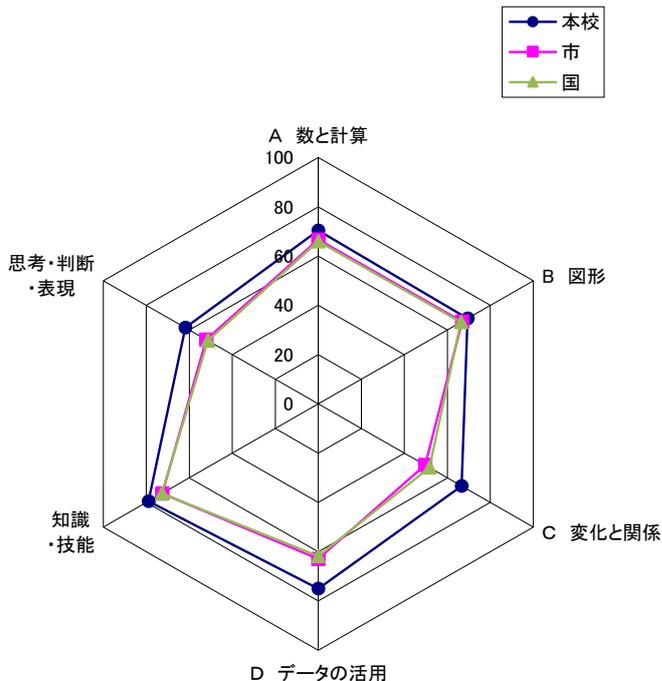
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は75.0%で、国の正答率を上回った。 ○漢字を正しく書く問題では、2問ともに正答率が77.8%で、どちらも国の正答率を上回った。	・漢字の習得のために、宿題や朝の学習等で、繰り返し練習に取り組んでいく。また、定期的に小テストを行ったりすることで、定着を図る。
(2) 情報の扱い方に関する事項	○平均正答率は100%で、国の正答率を上回った。 ○「メモの書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する」問題では、正答率が100%であった。	・複数の資料を比較し情報を精査する力や、目的や相手に応じて必要となる情報を選択する力を、引き続き育成するよう指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●平均正答率は66.7%で、国の正答率を下回った。 ●「読書の記録の空欄に入る内容として適切なものを選択する」問題では、国の正答率を10.9ポイント下回った。	・日常的に読書に親しむ時間を設け、読書が、自分の考えを広げることに役立つということに、気付けるようにする。
A 話すこと・聞くこと	○平均正答率は66.7%で、国の正答率を上回った。 ○「学校の取り組みを紹介する内容を、メモにどのように整理したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する」問題がよくできていた。	・話し合いの場では、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるようにする。
B 書くこと	●平均正答率は66.7%で、国の正答率を下回った。 ●「文章の空欄に入る内容を、取材メモを基にして書く」問題で課題が見られた。	・行事作文やお礼の手紙等、書いて表現するという活動を日常的に行い、書く力を身に付けさせる。その際、目的に応じて、与えられた条件で文章を書くようにし、様々な形式の文章が書けるようにする。
C 読むこと	●平均正答率は48.1%で、国の正答率を下回った。 ●「物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く」記述式の問題では、無回答率が44.4%であり、課題が見られた。	・物語を読む際には、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えさせたりする。 ・読書をより習慣化させ、読解力の向上につなげ、さらに感想や自分の意見をもてるようにする。

宇都宮市立篠井小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	70.4	66.7	66.0
	B 図形	69.4	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	66.7	49.6	51.7
	D データの活用	75.0	62.9	61.8
観点	知識・技能	79.0	72.6	72.8
	思考・判断・表現	61.9	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○平均正答率は70.4%で、国の正答率をやや上回った。 ○「除数が1/10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ」問題がよくできていた。	・今後も、基本的な計算の定着に向け、宿題や朝の学習等で復習を継続する。
B 図形	○平均正答率は69.4%で、国の正答率をやや上回った。 ●「円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ」問題で課題が見られた。	・定規、コンパスなどを用いて、図形を書かせたり確かめさせたりする活動を充実させ、図形の性質を理解できるようにする。
C 変化と関係	○平均正答率は66.7%で、国の正答率を15ポイントと大きく上回った。 ○「道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く」記述式の問題では、国の正答率を大きく上回った。	・日常の具体的な場面に対応させたり、表などを用いて道のりと時間との関係を表したりする活動を充実させ、速さの意味を理解できるようにする。
D データの活用	○平均正答率は75.0%で、国の正答率を上回った。 ○「円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く」問題では、正答率が100%であった。	・グラフや表を読み取る学習において、タイトルや縦・横軸に着目して、どのような内容をまとめているのか、何が分かるのかを丁寧に読み取らせる。 ・他教科においても、グラフや表を読み取ったり、作成したりする学習を積極的に取り入れる。

宇都宮市立篠井小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が国の割合を上回った。学級での話し合いを進んで行き、児童の意見を尊重してきた成果が見られる。今後も話し合い活動の充実を目指し、児童の意見を引き出す指導を行っていく。

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問では、児童の肯定割合が100%となった。学校が行ってきた地域密着型行事や活動の結果であり、児童が地域や社会に対する愛着や関心を深く持っていることが分かる。今後も指導を継続し、地域や社会に関する興味関心を深めていく。

●「自分には、よいところがあると思いますか」の質問では、児童の肯定割合が66.7%と市の肯定割合を大きく下回っている。児童が自分のよさを自覚できておらず、自信をもって活動に取り組むことができていないため、今後様々な活動や場において児童のよさを認め励まし、自尊感情を一層高められるようにしていきたい。また、学校行事や委員会・クラブ活動といった特別活動において、担任だけでなく、様々な教職員が声掛けを行い、児童の自己肯定感や自己有用感を高めていく。

●平日のスマートフォン、ゲーム、タブレットの使用時間についての質問では、テレビゲームと動画視聴のどちらも1時間以上利用しているという回答の割合が約半分となっており、2時間以上利用する児童の割合も比較的高い傾向にある。もう一度、情報機器の使い方を見直し、児童がよりよく時間を活用することができるように声掛けをしていく必要がある。

宇都宮市立篠井小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的に学び、自分の思いや考えを伝え合う児童の育成～生活科・総合的な学習の時間の学習活動を通して～	○宇都宮モデル(はつきり・じっくり・すっきり)を活用した授業改善の推進 ○少人数指導を取り入れた、個に応じた指導の展開 ○比較・分類・関係付け・理由付けを促す発問の工夫 ○ペアやグループ学習など、協働して課題に取り組む指導の実践 ○一人一台端末等のデジタル機器の効果的な活用	・「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の肯定回答率は88.9% ・「国語の授業の内容はよく分かりますか」の肯定回答率は77.7% ・「算数の授業の内容はよく分かりますか」の肯定回答率は88.9% ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の肯定回答率は88.9% ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の肯定回答率は77.8% ・「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使いましたか」の肯定回答

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<p>・国語では、我が国の言語文化に関する事項・読むことに課題が見られる。</p> <p>・どちらの教科においても、考えや理由を説明する問題に苦手な傾向が見られる。</p>	<p>・苦手とする領域を意識した指導の充実</p> <p>・表現力を高める指導の工夫</p>	<p>・物語の読み取りでは、登場人物の行動や気持ちを説明したり、それらを基に具体的に想像したことなどを文章にまとめて発表したりする活動を取り入れる。その際は、考えの根拠となる叙述を具体的に示させるとともに、自分の考えの理由付けについて説明できるようにする。</p> <p>・読書をより習慣化させていく。</p> <p>・授業の中で、友達と考えを伝え合ったり、説明し合ったりする機会をつくり、自分の考えを言葉や文章にする機会を多く設定する。</p> <p>・算数の授業では、式と計算について、言葉を使って説明を書かせるようにしていく。</p>